

愛着が生み出した、豊かな生態系空間「ライオンズ港北ニュータウン ローレルコート」

【 「グリーンマトリックス」により地域のみどりを再現したランドスケープ 】

「ライオンズ港北ニュータウン ローレルコート」は、第2回いきもの共生事業所認証施設として認証された集合住宅であり、生物多様性に配慮した模範的優良事例として、3年を経過した現在において環境維持する取組みを継続していると聞き、今回訪れる機会を頂くことができました。

総戸数221戸・地上8階建ての集合住宅は、パッシブとスマートを融合した次世代環境共生住宅として計画されました。豊かな緑量・ビオトープ・せせらぎを含めたランドスケープ計画は、港北ニュータウン最大の特徴である、緑を最大限に保存するためのネットワークシステム「グリーンマトリックス」を敷地内に再現した計画となっています。



見学会の様子



グリーンネットワークの説明看板



敷地内のビオトープ



在来種主体のラウンジ前の植栽

【 愛着を生み出す独自の管理体制 】

植栽への灌水・水系施設を具現化し維持する為、建築工事の際に井戸を掘削し、井戸水を有効に利用するとともに、ソーラーパネル・蓄電池システムの採用により維持管理コストの削減も図られています。「ランニングコストの削減により、噴水や水系施設は止められるマンションが多い中、現在も引き続き維持されている環境づくりが嬉しく思う」と事業主担当者が話されたのが印象的でした。

また、独自の生態系配慮型の管理体制を構築し、維持管理方針を共有することで、居住者の方々が愛着や自主性を育まれるようサポートされています。理事会には、理事長・副理事長だけでなくビオトープ担当理事も

存在し、理事会主催の勉強会やイベントの実施、ビオトープ通信の発行なども活発に行われています。これら情報共有により居住者ひとりひとりへの生態系の理解が深まり、いきものとの生活が継続していました。

【 子育て世代に安心な敷地内の自然 】

居住者は子育て世代が非常に多く、「周囲に公園がたくさんあるが、敷地内のセキュリティーに守られたところにこれだけの自然があるのは非常に嬉しい。子供はとりあえずマンションの中で遊んでなさいと自由に遊ばせられる。水にぬれても気にしない。」「今までにビオトープに落ちて危ないというのは聞いたことがない。足をを入れて遊んでいる子もいる。」などの声が聞かれました。自然なかたちでの居住者方同士の見守りが存在しているようです。また、昨年にはビオトープに飛来したカモが子育てを始め、親子でマンション内を歩く姿も確認できたそうです。

より身近な場所に良好な環境が存在し、いきものと共に生きることの大切さと、居住者方のさらなる愛着と思いが資産価値向上へと繋がるといえそうです。



ビオトープと駐輪場の屋上緑化



敷地内の歩道沿いにせせらぎ



エネルギー消費量を見える化



ビオトープで泳ぐカモの親子

【 ABINC 認証への思いと期待 】

理事会の方々からは、ABINC 認証への思いと期待をお聞きしました。

- ✓ グッドデザイン賞等に比べ認知度が低くあまり意識したことがない。
- ✓ 現状、企業向けの認証制度に感じるが実際に住んで生活しているのは我々であり、生物多様性・いきもの環境に関するサポートをしてくれることを期待したい。
- ✓ 認証の証となるわかりやすいプレートがあるとよいと思う。

ご意見を受け、ABINC としては今後認知度の向上やサポート体制に向け努力していきます。